

かんぎいん きごう 旧大枝村歎喜院の明治の水準点「高低測量几号」

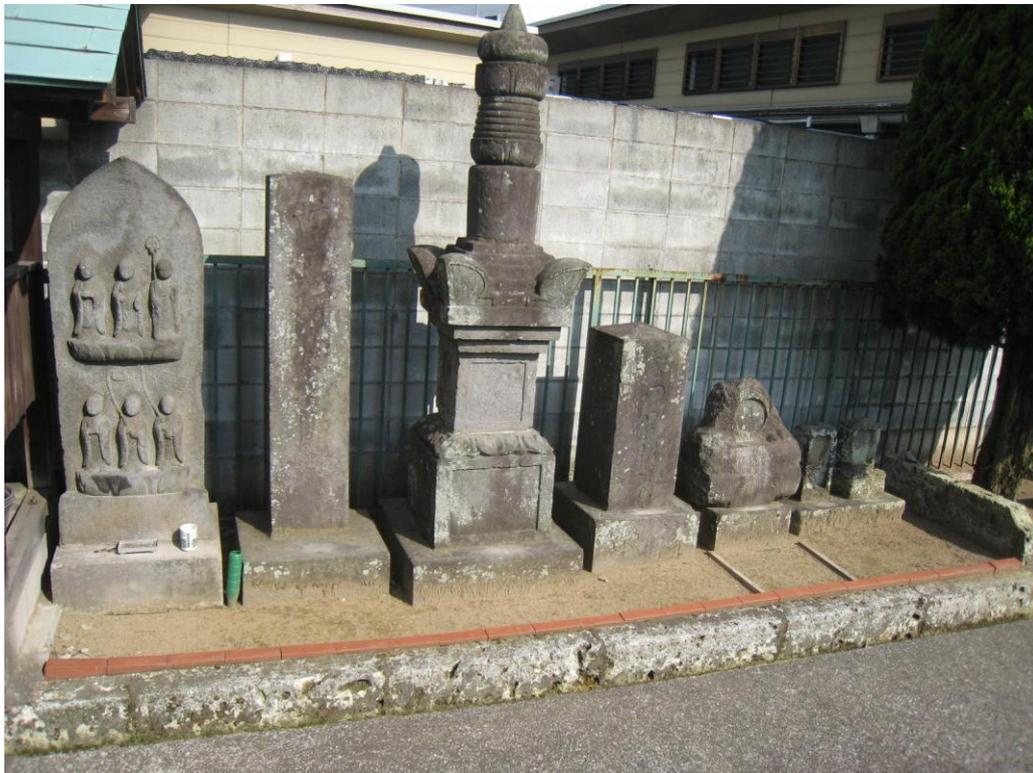
春日部市大枝の歎喜院の墓地内に貴重な明治の水準点「高低測量几号」が、本来の場所からは移動はしているものの、現在まで無事に残っていることが判明した。几号が刻まれている石塔とブロック塀との隙間がわずか20センチメートル程しかなく、しかも、刻まれた几号は地面すれすれの所で、探し出すには困難を生じるのに、よくぞ見つけ出したものである。私が平成13年に石仏調査を細部にわたって行ったにもかかわらず見逃したものである。この水準点を初めて発見した方に大いに敬意を表したい。冊子「旧大枝村の石仏」（加藤幸一著）の図版でいうと、図版14の「宝篋（ほうきょう）印塔」である。

図版14を含む図版12「一石六地藏菩薩像」から図版18「稻荷文字塔」までは、現在、墓地内に西方を向いて一列に並んでいるが、もともとは歎喜院の境内の外の日光街道（日光道中）の西側沿いの路傍に東方を向いて同様に一列に並んでいたものである。昭和29年頃に日光街道の道路の拡張にともない移転したものである。移転前とは180度向きが変わっている。



明治の水準点

このうち、中程にある図版14「宝篋印塔」の台石の裏側に明治の水準点である「不」の字のような記号「高低測量几号」が刻まれているのである（右上の写真）。



向かって左から3番目の石塔「宝篋印塔」の台石の裏側に明治の水準点の記号が刻まれている。本来は向かって左から2番目の普門品供養塔に設置されるべきである。大枝にある普門品供養塔に刻まれた明治の水準点を日光街道の路傍から墓地内への移転の時に、この普門品供養塔の明治の水準点が誤ってその隣の宝篋印塔に設置されたようである。

インターネットの「高低測量・几号水準点」(uenishi.on.coocan.jp/j584kigousuijun.html)によると、内務省地理局雑報掲載の中で、大枝村の几号水準点が下記のように掲載されていることから判明した。

「015 大枝村字屋敷前普門品供養塔 6.6431」（「6.6431」は、標高を表し、単位はメートル）

なお、出典は「内務省地理局雑報第十四号六月」（復刻版 内務省地理局編纂物刊行会／編『内務省地理局編纂善本叢書』14、ゆまに書房、1985、539-541頁）。

かんぎいん
大枝の歎喜院の石仏

《現在の墓地から日光街道沿いの元の場所に戻したと仮定した写真》



※上記の写真は、現在墓地にある石仏を、かつて日光街道沿いにあった元の場所に戻したと仮定して作成したものである。

手前の道路が日光街道（日光道中）で、向かって左方向は江戸、右方向は日光方面である。

平成24年8月22日 加藤幸一